

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付：2020年4月28日

事業ID：2018486111

事業名：ラオスにおけるろう者のエンパワメント及びラオスろう協会の強化

団体名：特定非営利活動法人アジアの障害者活動を支援する会

代表者名：前島 富子

TEL：03-6915-5545

事業完了日：2020年3月31日

事業費総額	14,579,580円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	3,849,580円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	10,730,000円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	0円	(収支計算書の青のセルの値)

1. 事業内容（実績。700文字以内）：

1. 北部・南部におけるリーダーの育成
 - (1) 時期：2019年5月～2020年3月（計4回）
 - (2) 場所：ラオス北部・南部・中部地域
 - (3) 対象者：各回平均29名（ろう者）
 - (4) 内容：ネットワーク構築、リーダーシップ育成のワークショップ、ろう者の世界の動向の学び

2. 社会参加・社会自立のための活動

- (1) 時期：通年
- (2) 場所：ラオス北部、中部、南部
- (3) 参加者：417名（ろう者、サポーター、一般参加者等）
- (4) 内容：
 - a. ろう協会小委員会定期会の開催（計6回）
 - b. サインカフェの運営
 - c. 手話講座の開催

3. ろう者の拠点づくり

- (1) 時期：2019年10月～12月
- (2) 場所：ラオスの北部、南部（フアパン、ルアンパバン及びサワナケート）
- (3) 内容：ろう者の拠点づくりとろう協会支部の設立準備

2. 事業内容詳細：

1. 北部・中部・南部におけるろう者リーダーシップの育成
2019年度（ろう協会 定期連絡会の実施）
4月ラオス正月のためなし。
5月15日（夜）理事会、分科会リーダー会議 10名
6月30日 ろう協会、会長のPhanita Maiphoneのダスキン研修で日本留学をした体験や学びの経験の共有がテーマ「アジア太平洋障害者リーダーシップ研修の意義」 49名
7月12日～14日 サワナケートろう者リーダーシップ育成ワークショップ 20名
7月1日～7月28日 サワナケートカフェトレーニング 4名

8月 4日 サウナケートカフェオープンとろう協支部についての報告 38名
8月 13日 定期報告、分科会報告 18名 (ピエンチャン)
9月22日 9月29日行われるDEAFウィークのイベントについて 28名
10月23日 -25日 ルアンパパンろう者リーダーセミナー 14名
11月26日 世界ろうあ連盟、アジア太平洋のろう者の運動の動向 22名
12月17日 みんなのカフェ2号店オープン、手話啓発について 27名

2020年

1月15日-17日 ルアンパパンろう者リーダーセミナー22名
1月20日 フアパン県ろう者の実態及び手話習得について 10名
1月31日 「ウッディ先生を迎えて」 手話によるパイリンガル教育の意義 38名
2月1日-2月22日 フアパン県及びルアンパパンろう者リーダーシップ育成トレーニング@みんなのカフェ 5名
2月3日&9日 定期報告会、リーダーシップ研修 28名
3月15日 新型コロナ肺炎の予防及び意見交換 リーダーシップ研修 26名
3月17日-20日 サウナケートろう者リーダーセミナー 20名

◎ラオスろう協会との活動

①ろう者の集い (抜粋)

(1)時期：2020年2月9日・3月15日

(2)内容：「ろうインターン生の話を聞こう」「ろう協からのお知らせ」(2月9日)

日本でのろう教育の様子や、日本とラオスの文化の違いなどについて、日本手話と覚えたてのラオス手話を混じってのスピーチをしてくれた。日本から若いろう大学生2名が日本でのろう者の若者がどのように生活しているか、またどのような施策があり、そしてろう者のエンパワメントがどのように日本では行われているかを発表、ラオスのろうの若者たちが大いにエンパワーされ、交流が盛んにおこなわれた。



※ 日本人ろうインターン生がパワーポイントを使ってプレゼンをするところ。

○サウナケート ろう者のリーダー育成活動：2019年7月1日～7月28日(立ち上げ準備)



サワナケートのコアリーダーのろう者と池田氏のミーティング

(1)7月12日ー14日 ろう協会支部立ち上げワークショップ

参加者：20名

第1日目(7月12日)

10:00~11:00 “みんなのカフェ” ビエンチャンでの体験話

講師：Mimi Phommachanh

主題：ろう協会の就労小委員会所属であり、実際にビエンチャンの ADDP みんなのカフェで勤務している職業能力も高く就労ロールモデルのリーダー、Ms.ミミが今までの就労体験、手話啓発のやりがい、就労の喜び等、これから就労を目指している若いう者に講義を実施。

11:00~11:30 ミミの就労エンパワメント講義

13:00ー16:00 “ラオスろう協会の仕組みと活動” 講師：Phaivan Vongnalath

ろう協のメイン役員として活躍してきたパイバンがろう協会の機能とビジョン、ろう当事者の連携の重要性と支部開設の説明を実施



第2日目(7月13日)

9:00~11:30 “タタのダスキン留学記” 講師：Phanita Maiphone

13:00~14:00 2020年4月のラオスろう協会のメンバー交流会について

14:30~16:00 デフスペース” 講師 池田ますみ

ろう者にとって快適な住まいとは？

ろうが快適に過ごせる部屋作りの条件を説明し、一人一人自分の理想の家(間取り)を紙に描いてもらう



ラオスろう協会サワナケート支部設立を見据えて、役員候補者を4名選定した。（後ほど1名辞退）

第3日目（7月14日）

サワナケートリーダーワークショップのコアリーダーが選出され、理事会ができた。サワナケート版“みんなのカフェ”オープニングも7月14日（日）に決定。とうとうサワナケート支部が稼働を始めた。開店以来多くのサワナケートの一般のラオス人が固定客としてろう者のカフェへ足を運んでくれている。7月14日から9月30日の来客延べ人数は628人。

◎第2回サワナケート リーダー育成ワークショップ

(1)時期：2020年3月17日～20日 10:00～16:30

(2)場所：“みんなのカフェ” in Savannakhet 県

(3)参加者：20名 4日間

(4)講師：講師 タタ（ラオスろう協会・会長）

(5)内容：1日目&2日目 情報交換、ピエンチャンろう協会ニュースの共有、「コロナウイルスについて」 3日目&4日目 「リーダーシップとは」「手話啓発について」

注視喚起 「コロナウイルス感染に気をつけよう」動画を作成し、‘みんなのカフェ in Savannakhet’ から発信し、その発信によりサワナケート県で孤立するろう者とネットワークをつなげることを目指す。

(6)課題：リーダーセミナーの目的は、サワナケートで手話啓発活動のために手話語りの上手なろう者を育成することが目的。しかし昨今の新型ウィルスの猛威につき、サワナケートのろう者は、コロナウイルスについての情報が家族からさえも教えてもらえず、知識が乏しく不安がっていたのと、サワナケートにもタイとの国境付近に感染者1名出たとニュースがあったため、ろう者の健康を守るためコロナウイルスについての情報提供をする必要性があり、ワークショップの内容を一部変更することにした。



※タタさんがコロナウイルスについて説明をしている様子



※ワークショップに参加できないろう者のために情報シェアとして「コロナウイルス感染から気をつけることは？」参加者と動画を作っています



内容：前半「コロナウイルス感染から気をつけることは？」後半：手話動画を収録する。



※ 新規参加者のため改めてもう一回コロナウイルスについて説明をする。

※ コロナウイルスについて理解しているかどうか質疑応答をして確認。

内容： 後半「三匹の子豚を手話で語ってみよう」手話啓発テクニック
まず、全ストーリーを説明した後、どんな風到手話表現をするかを課題として与え、4人ずつのグループに分ける。そのグループから1人ずつ発表する。

課題：全員（聴者スタッフも含めて）、その物語を知らない、見たこともなく聞いたこともないと分かった。色々な童話を馴染んでもらうためのワークショップもあったほうがいいかも知れない。



※ 3匹の子豚のストーリーを手話で表現するところ。

◎ルアンパバンろう者リーダーセミナー

日程：10月23日（水）－25日（金）及び1月15日（水）－17日（金）

〈ルアンパバンワークショップ〉

北部ルアンパバン県にて、LDPA 及びろう協会と協力しリーダーシップ育成ワークショップを実施した。若いうろ者との交流と、ろう協会支部の創設の重要性、ろう協会の役割、ろう者のエンパワメントについてのプレゼンテーションを含めたワークショップには、小・中学生22名とろう学校教員8名が参加した。ろう協会スタッフを中心に、ろう者の卒業後の進路や、就労、何か困っていること、手話について、家族との関係等の議題について意見交換を実施。あまり将来に希望を持っていないような回答が少ないことが危惧されたが、ろう当事者のピエンチャンのリーダー達のイキイキとした話に大きく若いうろの生徒たちが身を乗り出して話に聞き入っていた。身近な就労ロールモデルがルアンパバン県にいないことも大きな要因であり、そのことは当会の今まで培ってきた手話を啓発するカフェの運営のノウハウによりルアンパバン展開を2020年に実施することで解決する。そのためにろう学校のあるルアンパバンで将来に悲観的なろうの若い生徒たちに希望を照らし、世界遺産にも登録されたルアンパバンで当会の「Minnano Cafe」を展開するためのカフェの場所の分析と準備を開始しているが、このカフェにより卒業生の就労先の確保いもつながりカフェ

を通じてろう者が手話で社会を啓発するリーダーシップも引き出せることが期待される。ビエンチャンで Minna no Cafe で働くろう者のインタビュー動画も上映したところ、皆、非常に興味深く



将来に対して明るい希望をもってこの働く姿をよい表情で観ていたのが印象的であり、具体的な就労の姿が思い浮かべられたのではないかと。また、サワナケートにおいてもろう協会支部が立ち上がったが、ルアンパバンにも、ろう協会支部を立ち上げるため、少しずつ準備を進めている。現在、ろう学生たちは、卒業後にルアンパバンでの就職がなかなか見つからず、ろう者のコミュニティもバラバラになってしまうことも問題であった。そのためルアンパバンでろう協会支部を設立して、しっかりとろう者のコミュニティが持続可能な形で存在し、皆が繋がるような場所作りを行なうことが重要である。



◎Facebookの活用 全国のろう者とネットワーク構築

ラオス全県の支援を必要としているろう者たちのために、ラオスろう協会の活動や啓発メッセージをFacebookを利用しネットワーク構築のための情報提供をスタートさせ1年経った。本活動は将来のラオスろう協会の地方組織強化のプロジェクトの中で一番重要な活動であり、ICTやSNSのネットワーク構築のプラットフォームを活用し、地方でまだまだ孤立し取り残されているろう者とネットワークを構築を行っている。南部ではサワナケート、チャンパサック、セコン県などにろう者が存在し孤立しており、SNSを通じて連携することができている。また、このようなFB等の呼びかけは、各県においてラオスろう協会の支部を構築するための基盤となるとても有効な方法である。ラオスろう協会は若い団体であるが会長はじめ若い理事たちが今後のラオスのろう者をエンパワーするために様々な団体としての組織強化を自ら考え行動に移せるようになってきている。今後はフアパン県、ルアンパバン県、シェンクワン県、ウドンサイ県など更に孤立するろう者がネットワーキングを更にSNSを使用しつながり連携することを推進することとしている。

2. 社会参加・社会自立のための活動及び3. ろう者の拠点づくり

◎【サワンカフェ ADDP「みんなのカフェ」運営の様子】

手話の啓発とろう者の就労機会の場、ろう者ネットワークとしての「拠点」となるコミュニティカフェ（前年から継続）。カフェの運営を通じて一般の人たちがカフェを訪問、ろう者のコミュニケーションとしての手話をカフェ運営の傍ら積極的に啓発。ろう者の就労促進も実施している。ピエンチャンに2店舗、サワナケートに1店舗。現在トータルでろう者15名が勤務。

【ラオスろう協会支部・サワナケートの新しいリーダーシップ】

昨年からろう協会の組織能力の向上を目指し様々な後方支援を行ってきたが、今年前半のハイライトはなんといってもラオス第2の都市サワナケートでろう協会支部が立ち上がったことである。サワナケートにはろう学校が9年前まで開校していたが、校長先生が逝去され、その後ろう教育にしっかりとコミットする役人もサポーターもいなくなり、ろう学校が閉鎖されてしまったという経緯がある。南部にろう学校はなく、南部6県に住むろう者は行き場がなく学ぶ場もネットワークも希薄でありろう者は大変孤立した生活を余儀なくされていた。そんな状況下でも9年前まで学校があった関係でその頃小学校に通っていたろう者は学校の閉鎖に伴いピエンチャンのろう学校に転籍した人も多かったが20歳を過ぎ、成人になった今、その時の仲間と時折集まり手話を使って自分たちのアイデンティティを確認し合っていた。今回ろう協会本部とさらにしっかりと連携、ネットワークを結ぶことでピエンチャンのろう者とサワナケートのろう者が連帯をもってサワナケート支部創設に力を合わせ、カフェを支部としての機能を持たせ、ろう者だけでなく地域の人たちへ開かれたろう協会支部として今「みんなのカフェ」サワナケート（ろう協会サワナケート支部）がオープンしこれから積極的に活動を開始する。

2019/4/末-5月 カフェ創設準備（SVK） 場所の設定、リノベーション、カフェ資材搬入
2019年7月-2020年3月末まで
総顧客数：述べ337名

ヴィエンチャンに続きサワナケートで7月14日にオープンする手話啓発活動の基盤とろう協会支部となるカフェ開店準備を2019年度4月から6月まで実施した。サワナケート「みんなのカフェ」はラオスろう協会の支部としてラオスろう協会と共同管理の合意をした。スタッフの勤務体制、毎日の売上げ、備品の購入などは遠隔方法でラオスろう協会会長と当会スタッフが対応した。



手話啓発の様々@サワナケートカフェ



下：在ラオス日本国大使館竹若大使が訪問（2020年3月22日）



◎【ADDP「みんなのカフェ」ピエンチャン運営の様子】

時期：2019年4月1日—通年

顧客数：（2019年4月1日から2020年3月31日まで）1415名（1号店・2号店合計）

1号店である「みんなのカフェADDP」は2019年月8月には3周年となった。教育や社会参加から排除されてきたろう者が集い面接から始め、カフェ接客トレーニングを経て、就労能力が高まったろう者が当会のカフェ運営を中心に支えている。2019年4月1日からの事業終了の3月31日までの顧客数は、延べ数は初めて1000人を突破した。ろう者が現在14名勤務しており、接客サービス部門で活躍する者、手話講習指導者などでメキメキと指導力を発揮しているろう者、クラフトが得意でカフェで販売する小物を作る能力を存分に発揮しているろう者、パンやクッキー製造工房においてパティシエとしてその力を発揮するろう者、美容院で素晴らしい技能を示すろう者等、様々な職業分野で素晴らしい能力を示し、特にカフェという人々が交差するコミュニケーションの場において、彼らの卓越した手話を使いながらの素晴らしいコミュニケーション能力を余すところなく様々な場で発揮している。コミュニケーションのツールである手話を使いながらの接客は、ユニークなインクルーシブカフェとしてピエンチャンでは有名店となっている。手話の啓発とろう者の就労機会の場、ろう者ネットワークとしての「拠点」となるコミュニティカフェとしてのろう者の社会自立のためのエンパワメントといった社会的意義の側面はすでに達成しているが、もう一つ、本事業を継続して運営するためのソーシャルビジネスとしてのこのカフェの持続可能性の担保も課題となっており、様々なビジネス面での努力もろう者を中心にADDPも後方支援しながら営業や収益向上努力も皆で行っている。2号店も12月にオープン、地球の歩き方にも取材をもらうような人気店となっている。日本人観光客だけでなくラオス人はもちろん、韓国・欧米などの顧客も増えており、特に観光客を案内するガイドの口コミで更なる個人客や団体客も訪れるようになっている。11月からは毎日営業をしている。「手話コミュニケーションのできるカフェ」としてピエンチャンでも周知されている。来客数は増え続けている。ろうスタッフのユニフォームには貴財団のロゴを引き続き入れており、店内にも財団のロゴを使用している。2020年2月にはASEANツ

ーリズムアワードジャパン2019で当会のピエンチャンのMinna no caféがメコン賞を受賞「ラオスのろう者と共ニろう文化と手話文化を学ぶラオス・ピエンチャン5日間」ツアーで当会のろう者が働くMinna no Caféでの職場体験やラオス手話レッスンを体験するツアーが大評判となり、年間24名のツアー客（団体・個人ツアー含む）が当会のカフェを訪問した。



また、前回の報告書でも書いたがろう学校を小学校で中退してしまっているスタッフも多い中、当会の就労に関わるろう者たちは接客業には非常に長けており、大きな戦力として職業能力をいかに発揮している。ピエンチャンに在住するろう者の「集う場」としてもこのカフェが大いに役に立っており、ろう協会の会長も週に3回はカフェ及び当事業のオフィスに勤務し、ろう協会の理事会の各分科会の課題などを相談し合いながら、更なる若いろう者の様々な問題や課題などを積極的に当会の池田専門家などと相談している。定期リーダー会議も当会カフェで開催されている。ろう協会のろう支援の課題である1. 教育改善 2. 就労促進 3. 若手ろう者のリーダーシップ育成 4. 地方ろう協会のネットワークの構築 の4つの全てに現在当会と貴財団の支援、またろう者自身のピアサポートの連携も促進されながら課題である4項目が様々な形で改善されている。ろう協会の悲願であった地方支部の創設もサワナケートでは支部が生まれた。また、池田専門家がメンターとしてろう者のエンパワメントの後方支援を実施してくれていることがとてもよく機能しており、池田専門家とラオスろう者、ラオスろう協会の連携は強固であり、ろう当事者同士の連携とエンパワメントが功を奏しており、プロジェクトは大変よく機能している。定期的にろう協会からもモニタリングが入り、新規就労希望者の面接は随時行っている。また就労しているろう者の職業能力向上のための様々なテストなども導入し、各人のモチベーションを上げるような仕組みも引き続き行っている。

◎2号店のオープン「Minnano Café Samthenthai」
2020年1月8日から現在まで

とうとう念願のピエンチャンの中心地にラオス人オーナーの協力の下、Minna no café 2号店がオープンした。1号店で長くトレーニングを積んだ研修生たちが正式に観光地の中心でカフェにて勤務。手話を顧客にコミュニケーションのツールとして啓発し、手話教室も開く。彼らの素晴らしいコミュニケーション力を発揮するソーシャルカフェがオープンした。毎日営業で朝7時から夕方18時までオープンしている。ろう者はシフトワークで現在8名が働く。



近隣在住やオフィスに働くラオス人、欧米観光客、アジアの顧客、在留邦人などから愛されるコミュニケーションカフェとして開店から多くの顧客が訪れる人気スポットとなっており、地球の歩き方改定版（2020年4月）やラオス航空の機内誌にも宣伝される。またローカルテレビなどにも取り上げられており、人気のカフェとなっている。



◎ルアンパバン・フアパン県研修生 カフェトレーニング（2020年1月—3月）
 1月からの3月の3ヶ月の間に、ルアンパバン県及びフアパン県のろう者4名のカフェトレーニングと、手話コミュニケーションのスキルアップ研修を実施。カフェでの接客方法、ドリンクの作り方、簡単な計算を、ピエンチャンのろう者スタッフが中心となって教えた。実際のOJT方式で実際

の顧客を前に学べるトレーニングは大変効果的である。就学経験がない若いう者スタッフは、計算も苦手であり、足し算、引き算の基本的な計算方法を身に着けられるように、短い期間でしたが、学ぶことができたことで彼等も大いに自信をつけた。また、ビエンチャンはろう者の結びつき強く、コミュニティも大きい。ビエンチャンでのトレーニングはスキルアップだけでなく、新たなろう者の仲間と出会う、時間を共有することで、手話の上達も大いに見られた。この方式で地方支部を作る際にカフェにおけるトレーニングという名目で、リーダーシップ研修としてビエンチャンで研修を行うことは有益であり、彼らが地方に戻ってもろう者のネットワークと経験が自信へと繋がっていくと考える。手話上達により、さまざまな人とのコミュニケーションが広がり、今後も、ビエンチャンだけに留まらず、異なる県のろう者と繋がりを持っていくべき、そのネットワークの広がりがろう協会本部のキャパビルにもつながる。

〈サワナケートろう協会キャパビル支援〉

サワナケートに7月オープンした「Minnna no Cafe」が、オープンして8ヶ月経ち、サワナケートで暮らすろう者が集う場所、ろう・聴者ともに、手話啓発の場所となれるように、ろうスタッフたちが日々努めている。ラオス人がよく利用するFacebookを使って、スタッフが制作した手話動画の配信、カフェを利用するお客様への手話の啓発活動。また、サワナケートで開催されるのイベント出店にも積極的に参加し、少しずつではあるが、Minnna no Cafeの存在が周知されつつある。「ろう協会のサワナケート支部」も創設され、現在11名のろう協会支部の理事会メンバー候補者が、カフェのスペースを使って、パソコン操作やエクセルを学ぶトレーニングも行なっている。ビエンチャンから遠隔での活動支援となり、どうしても一つの目的達成までに時間が掛かるが、この8ヶ月でカフェの運営や手話啓発などの活動と、ろう協会設立準備を少しずつ進めている。そしてより一層手話啓発に力を入れていきたい。



【手話教室の様相】2019年4月—通年

手話講座3年次第1期開講

初級（3クラス以上）中級（1クラス）上級（1クラス）開講

カフェ手話教室

○一般向け初心者向けのカフェ手話教室（昼間）2019年4月～継続中

第1クラスは受講者13名、2019年4月-9月修了 2019年10月継続

第2クラスは受講者 8名 2019年10月継続

○基礎手話教室（夜間）初心者向け手話教室の修了者対象 11名

講師：3名、ラオスろう協会の役員

【手話教室の様相】

- 一般手話クラス中級開講



〈Minna no Cafe でイベント出店〉（一般手話講座の開催）

10月19日(土)・20日(日)に、ビエンチャ在住の日本人数人が中心となって企画しているイベント「ワクワク トンティン マーケット No.3」に参加した。カフェとして、ドリンクや菓子類の販売だけでなく、手話教室の時間もいただき、フルーツの名前や色について聴者の子どもたちに手話を教えた。手話教室は、回を増すごとに、ろう者のスタッフも自信を持って教えられるようになり、「先生役」が板についてきた。



教えることも面白さや、ろう者や手話の理解が深まることへの楽しさを大いに感じている。継続してこういった場を作ることが必要である。

3. 契約時事業目標の達成状況：

【助成契約書記載の目標】

1. 北部と南部の地方ろう者の現状調査し、各10名のリーダー素質のあるろう者をエンパワーする。
2. 地方都市における若手ろう者のリーダーシップを育成する。
3. ろう協会と当事者ニーズに即した長期活動計画を策定する。
4. ろう者と一般の住民、サポーターとの交流の機会を設ける。
5. 一般のボランティアの学生に対し、手話講座を開催し、将来の手話通訳者候補及びろう協会サ

ポーターを育成する。

6. 障害者間のピアサポートを通じ、就労機会や社会参加機会を増やす。

【目標の達成状況】

1の達成状況：北部（ルアンパバン県）と南部（サワナケート県）合計15名以上のリーダーの資質のあるろう者リーダーをエンパワーすることができた。

2の達成状況：地方都市（サワナケート、フアパン及びルアンパバン県）の48名のろう者のリーダーシップを育成することができた。

3の達成状況：ろう協会と当事者ニーズに即した就労・ろう教育・手話啓発・ろう協会支部創出の長期活動計画が策定され、労働社会福祉省とも協議を持ち合意を得た。

4の達成状況：ろう者と一般の住民661名（サワナケート）、ピエンチャンカフェも1000人以上の人々と交流の機会を持つことができた。

5の達成状況：手話講座を設け、一般の人々（子供から大人）に向けて手話啓発を行っている。現在通訳レベルの手話通訳者が4名誕生しており、ろう協会のサポートを実施したり、また政府との関係会議やセミナーなどでも通訳者として技術を更に磨くことができている。

6の達成状況：3つのカフェの運営とこれから準備段階に入るルアンパバンとフアパンのカフェにおいてもろう者同士のピアサポートが促進されている。コーチングや技能トレーニングはピエンチャンで活躍するろうの就労リーダー達がカフェ給仕のノウハウをしっかりと持っていることで、指導は全てろう者が行っている。ろう者の就労機会も拡大し、社会参加も増えている。

4.事業実施によって得られた成果：

（中長期 5年後）

ラオスのろう教育が改善され、ろう者が教育にアクセスすることができるようになる。

日本人ろう者によるピアサポートを通じて、北部、南部の基盤都市でろう協会の支部の役割をするたまり場（啓発カフェ）ができ、ろう協会の組織と連動し、地方でも情報提供が出来るようになる。社会にも手話の啓発や手話講座が増え、全国に広げるためのロールモデルケースとなり、また、カフェ運営を通じてろう者の自立した就労ロールモデルが育成される。

上記の中長期目標が現在良きサイクルで生まれており、ピエンチャン中心のラオスろう協会本部がしっかりと団体として全国のろう者とネットワークを作り、カフェ就労を通じて社会で活躍できるロールモデルを作り、そしてろう運動で最も大事である「手話は言語である」という社会への手話を理解する啓発を皆が率先してカフェを通じて行い、そして仲間と連帯し、共に成長し合い、支えながら、カフェを中心にろう者の居場所が生まれており目標通りに進んでいる。

（最終目的）

ピアサポートを通じて、ラオスろう協会の組織が盤石になり、ラオス全国で、エンパワメントを通じた当事者ピアサポートグループが生まれる。手話の啓発が社会に進み、ラオスのろう者が積極的に啓蒙の主役として活動できる場が生まれ、手話通訳者を通じて地域住民とコミュニケーションが進み、ろう者が生き生きと手話を使うことができ、自分に自信を持ちながら社会参加・社会自立のロールモデルとなれる。また手話ができる教師の人材育成が進み、ろう教育が改善され、手話で中等教育、高等教育に進めるろう者が増え、ろう者の学力も上がり、大学に進むろう者も数名生まれ

る。

上記の目的も着実に成果を上げている。現在小さな地域・地方でもピアサポートグループが生まれ、支部の土台ができています。それは本プロジェクトを開始する前は姿すら見られなかった。今ろう協会が少しずつ進化し、組織が強固となり、団体をけん引するリーダーが育っていること、そして、社会参加や社会自立のロールモデルも生まれており、それはろう協会会長のタタ氏のリーダーシップも重要であるが、そのろう協会を支える池田専門家の功績も大きい。現在ろう教育向上プロジェクトでもろう者の手話インストラクターがJames Woodward 教授の指導の下で生まれている。ここから就労ロールモデルと教育ロールモデルが共に更に数が増えていくことでろう協会のリーダーシップがさらに力強く強固になっていく。現在とても良きサイクルが生まれている。

5.成功したこととその要因：

当会が本事業で大事にしていた点は、ろう者の就労を通じたリーダーシップ育成と地方におけるろう協会支部の創設である。就労を通じて当会が過去3年間で育成した14名のろう協会メンバーのリーダーシップは大いに発揮されている。教育も小学校途中でドロップアウトしている多くの若いう者達が就労と接客を通じて、ラオスでは手話が全く啓発されていなかった中で、多くの場合、一般の聴者は手話に触れることもなく、ろう者のニーズやろう者の理解が全く進んでいなかった。そんな中でろう者のアイデンティティとして重要な手話をどのように啓発していくか、そしてまだ若い団体であるラオスろう協会の地方支部や地方のろう者のネットワークをどのように構築していけばいいか考える中で、「カフェ」と「ろう協会」と「手話啓発」のキーワードをつなげ、ろう者が働くことができるカフェを創設することで、そのすべてのろう者のエンパワメントの活動がそのカフェの場で生まれるのではないかと事業設計の段階で当会は案を温め、ろう協会にその計画を伝え、ろう協会の会長であるタタ氏がそのビジョンに共鳴し、また池田専門家の人柄とピアサポートにより本プロジェクトが動き出した経緯がある。ろう者は仲間との就労のトレーニングを通じて、自信を深め、聴者と触れ合いながら、手話を啓発する活動に喜びを見出し、彼らが今、経験を積みながらイキイキと働きそしてろうの仲間と結束しながら必然的にそのカフェ活動自体が地方においてはろう協会の支部ともなっている。ろう者が集い、ろう者が自分たちの手話を社会に積極的に啓発するリーダーとなりカフェを支えている。良き成功例が生まれており、ピエンチャンのカフェの中核メンバーがリーダーとしてさらに厳しい環境で生きている若いう者をカフェのトレーニングのメンターとして更にピアサポートにより地方のろう者を支えている WINWIN のサイクルが生まれている。この相乗効果こそが当会が本事業で求めていた成果でありとても良き成功例であると考えます。

みんなのカフェも3年目となり持続可能なビジネスとしてのカフェ運営の中長期ビジョンを打ち立て、集客のためのイベントづくり、収益向上のための努力や、接客の際の手話で積極的に顧客とコミュニケーションを取りながらリピーター客を着実につなぎとめる努力など、ろう者たちが自分で考えそして自分で職業能力を高めながらリーダーとして育っていることは大きな成功例といえる。一般の人たちがカフェを訪問、ろう者のコミュニケーションとしての手話をカフェ運営の傍ら積極的に啓発。ろう者の就労促進も継続し実施している。現在ろう者14名が勤務。2019年12月に2号店の「みんなのカフェ」がオープン。ピエンチャンの街の中心部にあり、多くのお客様にぎわっている。1号店でトレーニングを終えた5名のろう者が2号店で勤務している。2号店はラオス人の起業家との協力を得ることで店舗を開くことができた。2階はオーナーが経営するホテルであり1階部分をカフェにする必要があり、当初からこのラオス起業家は「みんなのカフェ1号店」のコンセプトを気に入っており、常連のお客として1号店のろう者の職業能力の高さに早くから理解を見せており、今回貴財団において支援をいただいていた1号店から更にラオスの起業家と連携することで更なる手話を啓発するカフェがラオスの最近のカフェブームにより多くの競合店がある中でもその個性的なコンセプトが観光客や在住ラオス人・外国人の中でも話題となっている。手話啓発イベントも頻繁に

開催しており、ラオス社会に手話が大きく浸透してきている。

6.失敗したこととその要因：

失敗要因は特にはないが、3月初旬から世界中の新型コロナウイルスによる混乱が続き、ラオスも感染者が出ている。またラオスの周辺国がロックダウンを実施しているためラオスに渡航できるフライトが現在ない。3月21日に急遽当会関係者の池田専門家、中嶋スタッフがロックダウン開始で全ての国際フライトがキャンセルになる中、最後のフライトで帰国しなければならない状態になり急遽帰国を余儀なくされた。ラオス政府も4月1日から全国民に向けて都市封鎖が開始されている。今後の事業の進捗に大きく影響する事態となってきている。

7.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案：

就労活動を通じて特にろう者が抱える教育の格差が顕著にみられる。

ろう者の多くがまともな教育を受けられない状態が長く続いており、簡単な基礎的学力も備わっていないろう者が多い。計算・読み書きができない20歳を超えたろう者も多い。抜本的なラオスにおけるろう教育の改善が必要である。教育面では現在「ラオスろう教育向上プロジェクト」が貴財団のご支援により走り始めている。ラオスにおいて教育と就労の面でろう者の更なる社会参加と学力向上が進み高等教育まで進むことができるろう者の育成が急務である。

また事業があと1年になることを踏まえ、現在のカフェ（3店舗）も持続可能なソーシャルビジネスへと来年から徐々に移行していく。ルアンパパンでも小さなカフェをオープン予定。ろう協会のネットワークを更に強固なものにしていくための後方支援に努めたい。

事業成果物：

【成果物の名称】

- ① ろう協会FB定期ニュース（動画）
- ② リーダーシップセミナーの様相（動画）
- ③ 手話指導の様相（動画）
- ④ Tシャツ（日本財団ロゴ入りカフェ給仕用）（写真）
- ⑤ 報告書